

D1 Trend Method Basic Style Text

4

Part1

4

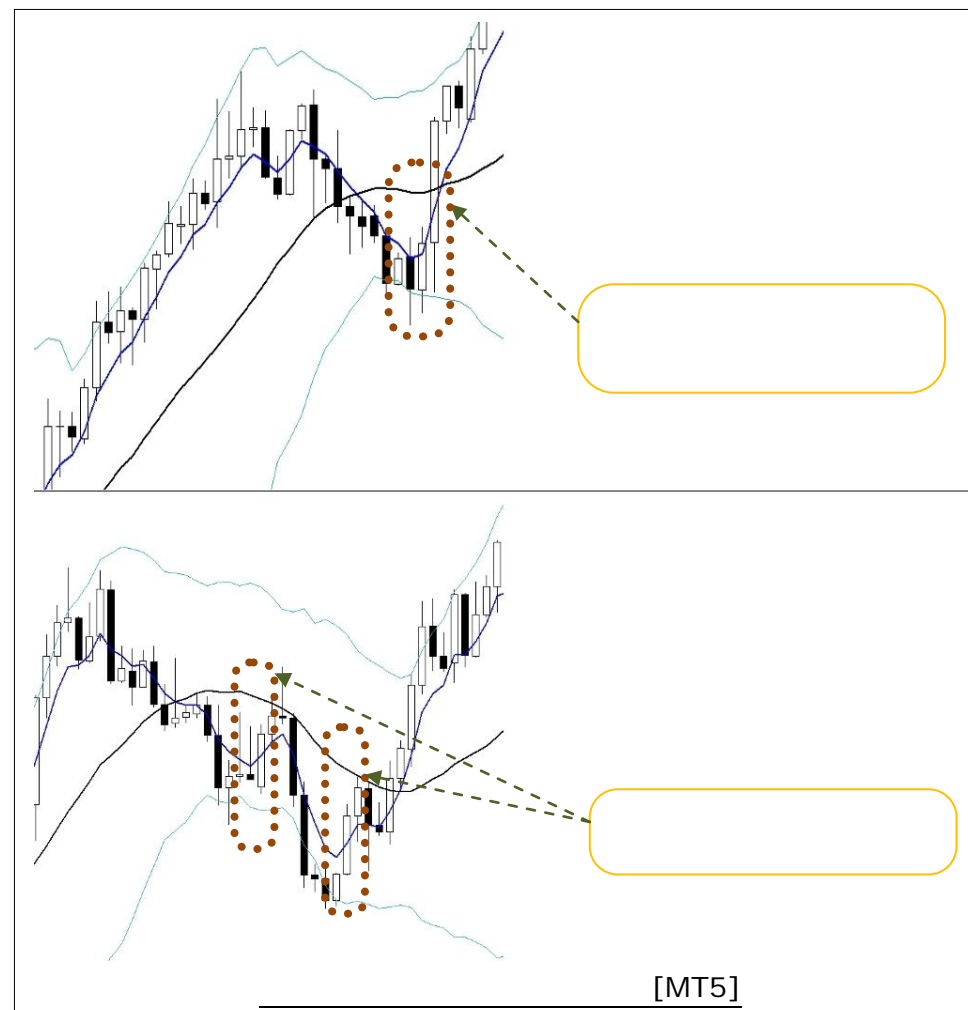
Part1

押し目判断時間チャートにおいて、条件完了と判断した上で、いざエントリーしようと思った時に、同チャートの（移動平均線）の向きを確認します。その結果、

何も問題ないので、そのままエントリー。

エントリー後、（移動平均線）否定付近や向かい側の（ボリンジャーバンド） \pm σ 付近で反発され、戻ってくる可能性が高いので、一つ上の時間チャートを確認しに行く。

※移動平均線が否定の場合、一つ上の時間チャートを確認しに行くことで、右図上限のチャートになっていることがあるので、きれいなチャートでトレードすることが、勝率をより高いものにしてくれます。

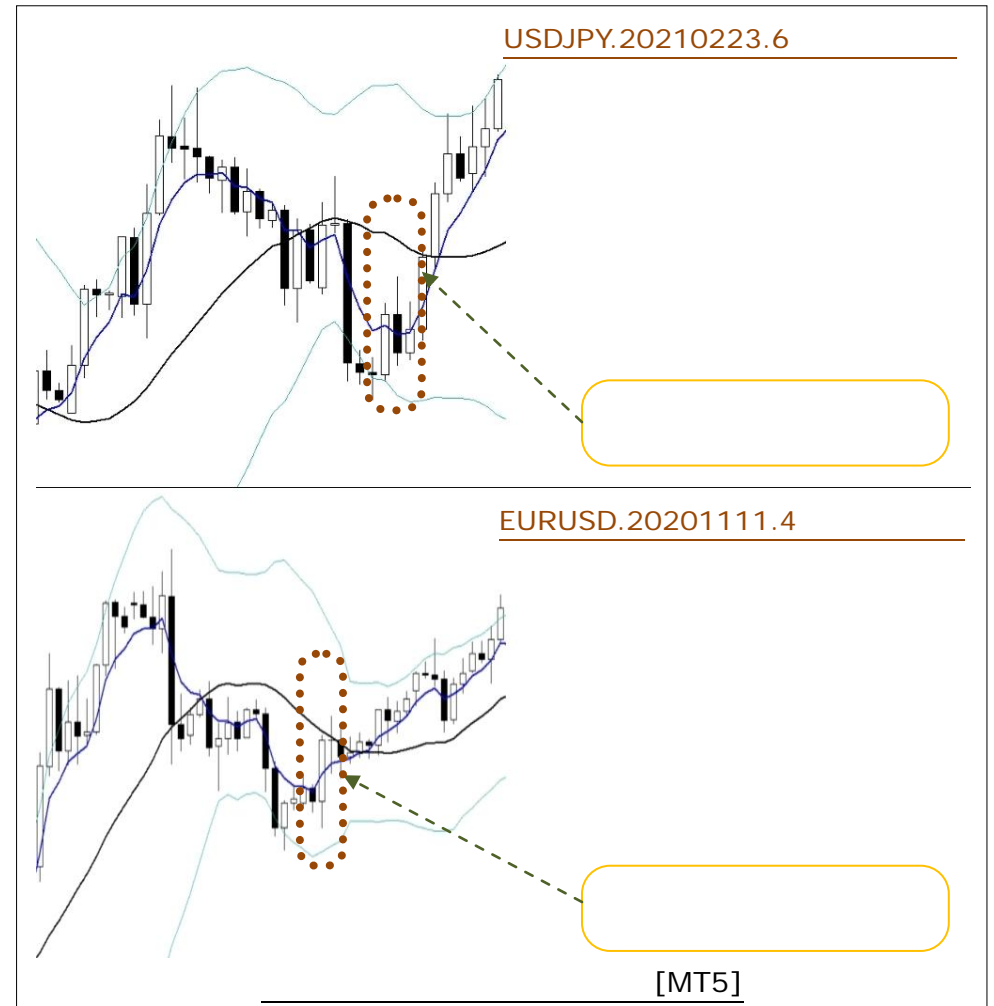


4

Part1

移動平均線の否定で反発するという事例は、あくまで可能性の話になるので、移動平均線が否定の状態で反転サインが出た場合、そのまま反転することもよくあること。

そもそも移動平均線の否定を判断することが難しいです。押し目として、 $\pm \sigma$ まで押し目を待って反転を待つので、よほどの勢いや力がかかっていないと移動平均線の水平や肯定を見つけることは出来ないからです。その上、どの程度の向きが否定になるのかというのは、過去チャートを見れば、一目了然ですが、リアルタイムでチャートを見ていると、価格同様に移動平均線も動いているので、判断が難しいです。



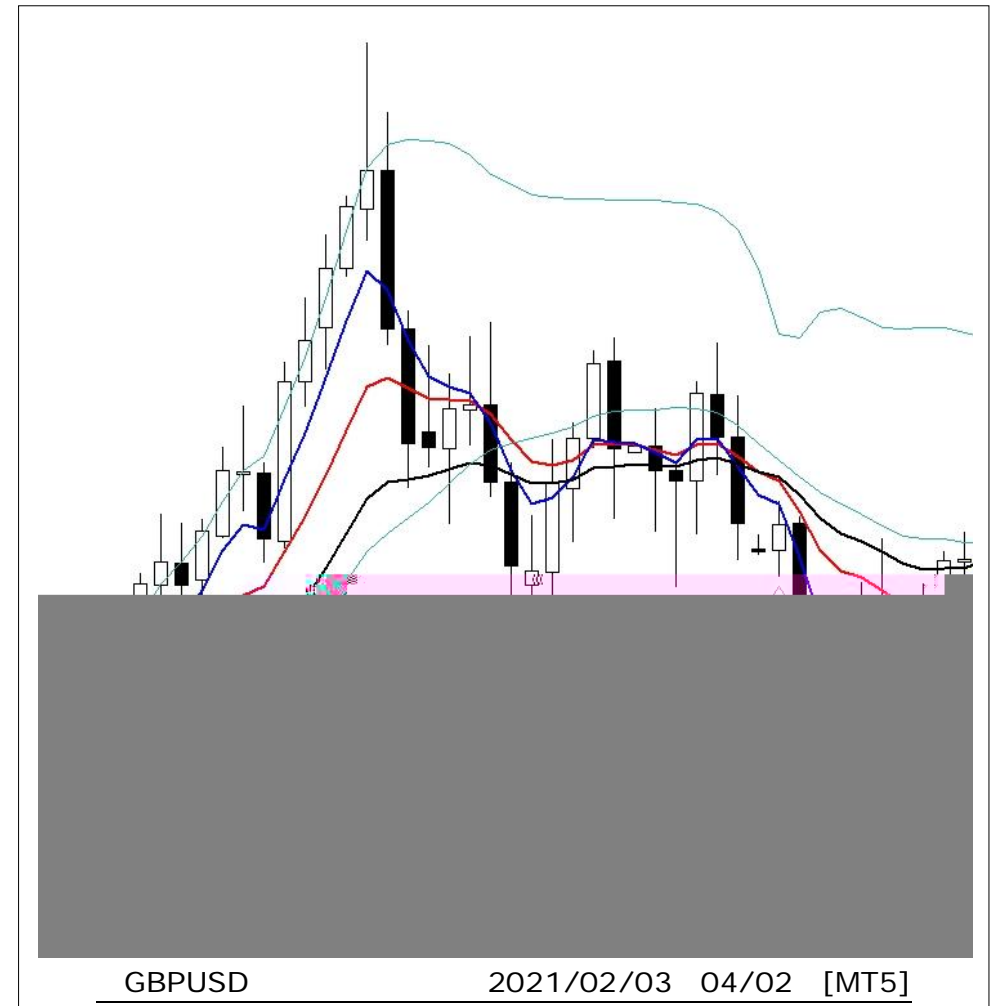
4

Part1

大前提の話として、 の価格変動とは、『上へ向かえば、どこかのタイミングで下を目指し、逆に、下へ向かえば、どこかのタイミングで上を目指す』ということ繰り返すことが基本です。従って、『上へのトレンド』も、『下へのトレンド』もいつかは終わりがきます。これは、 トレードを行う上で、このことを理解しておく必要がある重要事項です。これを理解しておくことで、次の 二つのことを想定出来ます。

FX

右図のように日足チャートでも、波は上や下へ向かうことでチャートを形成します。



4

Part1

BB 2

右参考図のように、 σ にタッチせずに反発反転することもあります。従って、この手法を使ったトレードでは、柔軟な思考でトレード判断をする必要があります。

右参考図の場合は、時間チャートでタイミングをとってトレードすれば、手法のルール通りになるわけですが、先に解説した MA
というテクニックで言うと、時間チャートの は否定ともとれる向きにあるので、エントリーは見合わせた方がいいのではないかと判断する方もいるかもしれません。

しかし、その判断は、『正しくあるし、間違いでもある』という結論になります。それは、チャートのインジケータは、あくまで後付けの産物なので、チャートのどんな状でも正確に反映するものではないということです。なので、トレードをするにあたって柔軟な思考が重要です。

